

旧暦の8月15日の満月の夜を、「十五夜」といいます。今の暦では、9月から10月上旬に当たります。また、この日は、旧暦でちょうど秋の真ん中にあたるので、十五夜の月のことを、「中秋の名月」といいます。

松尾芭蕉が、「名月や池をめぐりて夜もすがら」と詠んだように、夜通し月を眺めて歩くほど、十五夜の月は、一年で最も美しいとされています。

お月見の風習は、中国から伝わったものです。

十五夜の時期は、秋の農作物を収穫するころにあたるので、穫れたばかりの農作物をお供えして、秋の実りを感じます。農作物のほかにも、月見たんぼや秋の七草などをお供えます。

鹿児島各地で

は、その土地ならではの十五夜の行事も行われます。

と論十五夜踊り

(与論町・琴平神社)

を紹介いたします。

## 今月の言葉 「十五夜」

旧暦の3月、8月、10月の十五夜に行われ、約450年の歴史があります。踊り手は、一番組と二番組に分かれ、交互に踊りを奉納します。一番組は大和風の踊り、二番組は、琉球風の踊りになっています。



一番組の踊り



二番組踊り

参考

・「季節を知る・遊ぶ・感じる9月のえほん」(監修・長谷川康男)  
・鹿児島県庁ホームページ

【写真 和田州生氏提供】

